

平成31年 4月市長定例記者会見

日 時：平成31年4月3日（木） 午前11時～午前11時30分

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、チューリップテレビ、
ホットライン KOSUGI、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、生活安全課長、地域福祉課長、商工企業立地課長、
生涯学習・スポーツ課長

質疑応答の概要

Q1 . ネーミングライツについて、対象となる企業は市内の企業のみなのか、
県外の企業からも応募できるのか。また、選考に当たっては、金額の多寡
によって決定するのか伺いたい。

A1 . 対象とする企業は市内に限定している。選考については、最低価格以上
の額で、価格面も重視するが、企業の財務状況や社会貢献などの活動状況
を含めた総合的な観点から審査を行いたいと考えており、価格のみで決
定するわけではない。

Q2 . 中小企業の支援策の創設・拡充について。新しく創設した補助制度に何
件ほどの応募があると見込んでいるか、また、期待値や予算措置などを伺
いたい。

A2 . 見込みについては不明であるが広く応募してほしい。何件まで受け付け
ると決めていないため、相談してもらい内容に合致した場合に補助をす
ることを考えている。事業を検討している方にぜひ利用していただき
たい。

Q3 . 射水市の財政状況について。他市の状況を踏まえつつ、現在の状況・健
全性を伺いたい。

A 3 . 合併以降、普通交付税の合併算定替や合併特例事業債の発行など、合併市が受けられる有利な国の支援を活用しながら、新しいまちづくりに計画的に取り組んできた。また、効率的な行政を目指すべく、庁舎の統合をはじめとした施設の最適化や定員適正化計画に基づいた職員数の削減や事業の見直しを行ってきた。さらに、4月からは使用料手数料の見直しなど行財政改革にも取り組むなど健全な財政運営に努めている。こうした状況の中で国からの支援が縮減し、いずれはなくなるということを見越しながら機会を捉えて計画的に基金を積み立ててきた。今後、高齢化に伴う社会保障関係費の増加、公共施設の老朽化による維持・修繕費が増加することも見込まれる。そのため、基金への依存度が高くなると想定され、財政運営の厳しさは増してくる。計画的に基金を積み立ててきているため、市の財政が直ちに危機的な状況に陥るわけではないが、予算編成については、基金への依存度が高くなる時期がしばらく続く。財源確保に向けた取組や健全な財政を堅持し、市民サービスの質を向上していくためにも、更なる事務事業の見直しや公共施設の適正配置、施設の長寿命化などを行いながらトータルコストの抑制、さらには、受益者負担の適正化も含め行財政改革にスピード感を持って取り組んでいかなければならない。それにより、基金への依存度を早期に減らしていけるように取り組んでいく必要があると考える。

Q 4 . 中小企業の支援について。IT活用新事業のインターネットショップへの支援は市内中小企業が対象となっていた。説明の中で、後半の商店街等新規出店支援事業と併せて使えるとあったが、対象となる市内中小企業とは既存の中小企業のみが対象なのか、これから創業される方も対象となるのか伺いたい。

A 4 . 商店街等新規出店支援事業については、市内にある商店街の空き店舗を活用して事業を始めようとする方への支援である。従来の事業者が店舗を改装して事業を行う場合も新規出店の補助を受けることができる。新しく創業する方には、これまでは100万円の上限だったものを130万円まで上限を引き上げるという拡充を図った。また、IT活用については、そうした状況の中で、新しく創業される方も従来の企業が始める場合も対象となる。